

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3232176号
(U3232176)

(45) 発行日 令和3年5月27日 (2021.5.27)

(24) 登録日 令和3年5月10日 (2021.5.10)

(51) Int.Cl.

B 4 4 C 3/00 (2006.01)

A 4 4 C 3/00 (2006.01)

F I

B 4 4 C 3/00

A 4 4 C 3/00

P

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	実願2021-901 (U2021-901)	(73) 実用新案権者	503170983
(22) 出願日	令和3年3月17日 (2021.3.17)		株式会社大橋金属工艺
			大阪府大阪市天王寺区清水谷町4番10号
		(74) 代理人	100085316
			弁理士 福島 三雄
		(74) 代理人	100171572
			弁理士 塩田 哲也
		(74) 代理人	100213425
			弁理士 福島 正憲
		(74) 代理人	100221707
			弁理士 宮崎 洋介
		(74) 代理人	100221718
			弁理士 藤原 誠悟
		(72) 考案者	大橋 正起
			大阪府大阪市天王寺区清水谷町4番10号
			株式会社大橋金属工艺内

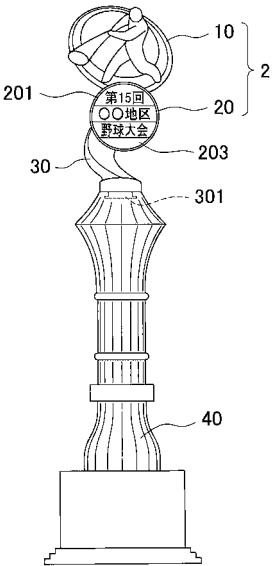
(54) 【考案の名称】 トロフィー用装飾部品

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】従来のトロフィーの装飾部には背面に装飾が無いために、飾る向きが限定されるという課題があった。

【解決手段】両面加工の装飾が施された装飾部10と、正面に、表彰される内容に関する情報が記載されている表示部材203が取り付け可能な枠201を備えると共に、背面に、前記装飾部の装飾に関連する装飾が施されてなる本体部20と、を備えることによって、高い美感を備えると共に、表面若しくは裏面のいずれからでも鑑賞することができるトロフィー用装飾部品を提供する。

【選択図】 図7



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

両面加工の装飾が施された装飾部と、
正面に、表彰される内容に関する情報が記載されている表示部材が取り付け可能な枠を備えると共に、背面に、前記装飾部の装飾に関連する装飾が施されてなる本体部と、
土台部とのジョイントを備える脚部と、を有し、
前記装飾部と前記本体部が接続されて装飾本体が構成され、
前記脚部は前記装飾本体から延設されてなる
ことを特徴とするトロフィー用装飾部品。

【請求項 2】

前記枠が、前記表示部材を取り付け可能な凹部を取り囲んで形成される
ことを特徴とする請求項 1 に記載のトロフィー用装飾部品。

【請求項 3】

前記凹部の底面に印章が施されてなる
ことを特徴とする請求項 2 に記載のトロフィー用装飾部品。

【請求項 4】

前記枠に前記表示部材が取り付けられてなる
ことを特徴とする請求項 1～3 のいずれか 1 つに記載のトロフィー用装飾部品。

【請求項 5】

前記表示部材が平板である
ことを特徴とする請求項 1～4 のいずれか 1 つに記載のトロフィー用装飾部品。

【請求項 6】

請求項 1～5 のいずれか 1 つに記載のトロフィー用装飾部品と、前記トロフィー用装飾部品が取り付けられてなる土台部とによって構成されてなるトロフィー。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、各種の競技、美術、音楽などの表彰等に使用するトロフィーおよびトロフィー用装飾部品に関する。

【背景技術】**【0002】**

トロフィーは、各種の競技の大会などで優秀な結果を残した者に対して賞として提供されるものである。従来のトロフィーは、装飾部と、例えばイベント名や賞の内容を示した表示部を取り付ける本体部とを備える。

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

しかし、従来のトロフィーの装飾部には、正面から見れば装飾が施されているが、背面には装飾がない構成となっているために、飾る向きが限定されるという課題があった。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

そこで、本考案者らは、背面から見ても装飾品として使用できるよう装飾部に両面加工の装飾を施し、かつ本体部の背面にも装飾を施したトロフィーおよびトロフィー用装飾部品を考案した。

また、本考案者らは、本体部の枠に表示部を取り付けていない状態であってもトロフィーとして使用可能なよう枠の内側にも印章を施したトロフィーおよびトロフィー用装飾部品を考案した。

【0005】

本考案は、すなわち、以下の態様に関する：

10

20

30

40

50

〔態様１〕 両面加工の装飾が施された装飾部と、
正面に、表彰される内容に関する情報が記載されている表示部材が取り付け可能な枠を
備えると共に、背面に、前記装飾部の装飾に関連する装飾が施されてなる本体部と、
土台部とのジョイントを備える脚部と、を有し、
前記装飾部と前記本体部が接続されて装飾本体が構成され、
前記脚部は前記装飾本体から延設されてなる
ことを特徴とするトロフィー用装飾部品。；

〔態様２〕 前記枠が、前記表示部材を取り付け可能な凹部を取り囲んで形成される
ことを特徴とする態様１に記載のトロフィー用装飾部品；

〔態様３〕 前記凹部の底面に印章が施されてなる
ことを特徴とする態様２に記載のトロフィー用装飾部品； 10

〔態様４〕 前記枠に前記表示部材が取り付けられてなる
ことを特徴とする態様１～３のいずれか１つに記載のトロフィー用装飾部品；

〔態様５〕 前記表示部材が平板である
ことを特徴とする態様１～４のいずれか１つに記載のトロフィー用装飾部品；

〔態様６〕 態様１～５のいずれか１つに記載のトロフィー用装飾部品と、前記トロフィー用装飾部品が取り付けられてなる土台部とによって構成されてなるトロフィー。

【０００６】

本考案のトロフィー用装飾部品において、装飾本体は、装飾部と本体部が接続されて構成される。装飾本体では、装飾部が上部にあって本体部がその下にあって、本体部が上部にあって装飾部がその下にあってよい。装飾本体において、装飾部が上部にあって、本体部が上部にあって、装飾部と本体部背面の装飾は互いに関連している。 20

【０００７】

本考案のトロフィー用装飾部品において、表示部材は、平板であり、例えば円形、楕円形または長方形である。表示部材には、表彰される内容に関する情報が印刷またはレリーフ等により表示されている。

【０００８】

本明細書において、「表彰される内容に関する情報」とは、表彰されるイベント等の名称および賞に関する情報を言い、例えば、「第１５回地区野球大会優勝」、「第１０回全国サッカー大会準優勝」、または、「第２５回全国合唱コンクール最優秀賞」といった情報である。 30

【０００９】

本考案のトロフィー用装飾部品の本体部正面には、表示部材を取り付けるための枠を備える。枠は表示部材の形状に合わせて、例えば円形、楕円形または長方形である。枠の内側は凹んでおり、表示部材をはめ込むことができる。

【００１０】

本考案のトロフィー用装飾部品において、本体部の枠内側の凹部の底面には、印章が施されていてもよい。本明細書において、「印章」とは、例えば模様、レリーフ、彫刻などの美観に優れたものを言う。本体部の枠内側の凹部の底面に印章が施されているとき、本考案のトロフィー用装飾部品によって構成されるトロフィーは、表示部材を取り付けなくともトロフィーとして使用できる。 40

【００１１】

本考案のトロフィー用装飾部品の本体部の背面には、装飾部の装飾に関連する装飾が施されている。本体部背面の装飾は、装飾部の装飾と一体となって一つの形態を構成するものであっても、共通するモチーフを有する複数の関連する形態の組み合わせであってもよい。

【００１２】

本考案のトロフィー用装飾部品の装飾部および本体部背面の装飾は、野球や、サッカーや、音楽などの表彰される内容に関係したものであってもよい。例えばトロフィーが野球大会で与えられるものであった場合、装飾部にバットを振るヒトの、本体部背面に野球ボ 50

ールの装飾を施してよい。例えばトロフィーがサッカー大会で与えられるものであった場合、装飾部にサッカーボールを蹴るヒトの、本体部背面にサッカーボールの装飾を施してよい。例えばトロフィーが器楽コンクールで与えられるものであった場合、装飾部にト音記号の、本体部背面に楽器の装飾を施してよい。なお、装飾部の形状と本体部背面の装飾とは、表彰しようとする同じ競技を連想できる、関連した装飾が施されてなることが好ましい。

【0013】

本考案のトロフィー用装飾部品において、脚部は、装飾本体から延設されてなる。

本考案のトロフィー用装飾部品において、脚部は、土台部とのジョイントを備える。本考案のトロフィー用装飾部品の脚部にあるジョイントに、土台部を取り付けることで、本考案のトロフィーが構成される。脚部のジョイントの構造は、土台部と連結可能な構造であり、例えばネジ状、凸状構造または凹状構造である。本考案のトロフィー用装飾部品の脚部のジョイントが凸状構造であり、土台部が凹状構造を備えている場合、脚部のジョイントの凸状構造を土台部の凹状構造に嵌め込むことによって連結し、トロフィーとすることができる。

10

【0014】

本考案のトロフィー用装飾部品は、土台部と共に本考案のトロフィーを構成する。

本考案のトロフィーの土台部は、例えば平板、直方体、立方体、四角錐台または円柱である。あるいは、本考案のトロフィーの土台部は、複数の形状の組み合わせであり、例えば球体と立方体の組み合わせや、持ち手となる棒状の形態と直方体との組み合わせである。

20

本考案のトロフィーの土台部は、その全体または一部に、色彩、模様または彫刻など、あるいはこれらの組み合わせを施したものであっても、色彩、模様または彫刻などが全くないものであってもよい。

【考案の効果】

【0015】

本考案のトロフィーは、装飾部に両面加工の装飾が施されており、かつ装飾部に関連する装飾が本体部背面にも施されているために、正面からだけではなく背面から見ても装飾品として機能し得る。

また、本考案のトロフィーは、表示部材を取り付け可能な凹部の底面に、模様やレリーフや彫刻などの印章が施されているため、表示部材を取り付けていなくとも、トロフィーとして使用し得る。

30

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】本考案のトロフィー用装飾部品1の正面図である。

【図2】本考案のトロフィー用装飾部品1の背面図である。

【図3】本考案のトロフィー用装飾部品1の平面図である。

【図4】本考案のトロフィー用装飾部品1の底面図である。

【図5】本考案のトロフィー用装飾部品1の右側面図である。

【図6】本考案のトロフィー用装飾部品1の左側面図である。

40

【図7】表示部材203を取り付けた本考案のトロフィー用装飾部品と、土台部から構成される本考案のトロフィーの正面図である。

【考案を実施するための形態】

【0017】

以下、本考案に係る実施の形態を、図を参照しながら詳しく説明する。なお、本明細書及び図面において、実質的に同一の機能構成を有する構成要素については、同一の符号を付することにより重複説明を省略する。

【0018】

本考案の一つの実施形態において、本考案のトロフィー用装飾部品1は、装飾部10と、本体部20と、脚部30によって構成される。本考案のトロフィー用装飾部品1の装飾

50

本体 2 は、装飾部 1 0 と本体部 2 0 が接続されて構成される。

図 1 に示した本発明の一つの実施形態では、装飾本体 2 において、装飾部 1 0 が上部に、本体部 2 0 がその下にある。本発明の他の実施形態では、装飾本体 2 において、本体部 2 0 が上部に、装飾部 1 0 がその下にある。

【0019】

本考案の一つの実施形態において、装飾部 1 0 は、両面加工の装飾が施されており、この装飾は、本体部 2 0 の背面に施されている装飾に関連する。野球大会で与えられるトロフィーの部品であるトロフィー用装飾部品 1 において、図 1 に示した通り、装飾部 1 0 はバットを振るヒトの装飾が、図 2 に示した通り、本体部 2 0 の背面には装飾部 1 0 が示す競技に関連する野球ボールの装飾が施されている。なお、本実施の形態において、装飾部 1 0 及び本体部 2 0 には競技として野球を表す装飾を例として示しているが、このように、トロフィーが野球大会で与えられるものであった場合、装飾部 1 0 はバットを振るヒトの形状とし、さらに、本体部 2 0 の背面に野球ボールの装飾を施すことで、装飾部 1 0 の形状と本体部 2 0 の背面とが 1 つの野球という競技を連想することができ、トロフィーの装飾部品のどの部分を鑑賞しても、どのような競技に対しての表彰であったかが一目でわかるため好ましい。

【0020】

さらに、装飾本体 2 に現される競技は野球には限られない。例えばトロフィーがサッカー大会で与えられるものであった場合、装飾部 1 0 にサッカーボールを蹴るヒトの、本体部 2 0 の背面にサッカーボールの装飾を施してよい。例えばトロフィーが器楽コンクールで与えられるものであった場合、装飾部 1 0 にト音記号の、本体部 2 0 の背面に楽器の装飾を施してよい。なお、いずれの競技においても装飾部 1 0 の形状と本体部 2 0 の背面の装飾とは、表彰しようとする同じ競技を連想できる、関連した装飾が施されてなることが好ましい。装飾部 1 0 の形状と本体部 2 0 の背面の装飾とが関連することによって、トロフィーの装飾部品のどの部分を鑑賞しても、どのような競技に対しての表彰であったかが一目でわかるためである。また、競技内容が模式化することが難しい競技である場合には、装飾部 1 0 に女神や鷹などの勝利、強さを象徴するモチーフを立体的な装飾とし、本体部 2 0 の背面には地球を表すことで世界に誇れる競争力を発揮したことを象徴する装飾を施すこととしても好ましい。

【0021】

なお、図 3 ～図 6 に示したように、本体部 2 0 の背面は、厚み方向に少し膨らんだ膨出部 2 0 4 が形成されていてもよい。膨出部 2 0 4 が形成されているとき、本体部 2 0 の背面に施された装飾に立体感を付加できるため、美観の向上を図ることができる。従って、本考案の一つの好ましい実施形態において、本体部 2 0 の背面には、膨出部 2 0 4 が形成される。

【0022】

本考案の一つの実施形態において、本体部 2 0 の正面には枠 2 0 1 がある。枠 2 0 1 には、表示部材 2 0 3 が取り付けることができる。また、枠 2 0 1 は、凹部 2 0 2 を取り囲んで形成される。図 1 に示したトロフィー用装飾部品 1 において、枠 2 0 1 は、取り付けられる表示部材 2 0 3 が円形の平板であるため、円形に形成されてなる。

【0023】

図 7 に示した本考案のトロフィー用装飾部品 1 において、表示部材 2 0 3 は、円形の平板であり、表彰される内容に関する情報、例えば「第 15 回地区野球大会」の文字が、印刷により表示されている。なお、図 1 に示した通り、凹部 2 0 2 の底面には王冠と日光の輝きを表す模様からなるレリーフが施されている。このようなレリーフが施されてなることにより、枠 2 0 1 に表示部材 2 0 3 を取り付けない状態でも、装飾本体 2 の正面に高い美感を具備させることができる。これにより、表示部材 2 0 3 を取り付けなくてもよい場合であっても、両面から鑑賞可能なトロフィー用装飾部品を実現することができる。

【0024】

本考案の一つの実施形態において、脚部 3 0 は本体部 2 0 の下端から下方に向かって延

設されてなる。脚部 30 の底面には、図 1, 2 に示した通り、土台部 40 と連結可能な凸状構造のジョイント 301 を備える。ジョイント 301 は、例えば、土台部 40 の凹状構造にはめ込んだ後にジョイント 301 を半回転させることによって、ジョイント 301 の径方向外方に突設された爪を前記凹状溝に掛け止めることで土台部 40 に連結することができる。

【0025】

本考案の一つの実施形態において、本考案のトロフィー用装飾部品 1 は、その脚部のジョイントで土台部 40 と連結することによって、本考案のトロフィー 3 を構成する。

本考案のトロフィーの土台部 40 は、図 7 に示した通り、彫刻が施された棒状の形態と直方体の組み合わせである。

【符号の説明】

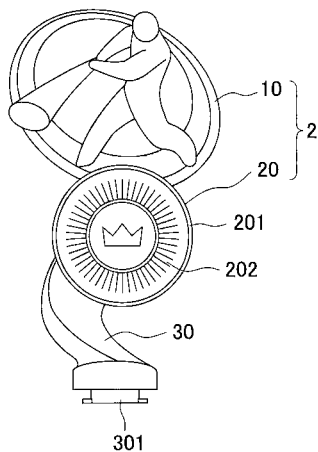
【0026】

- 1 トロフィー用装飾部品
- 2 装飾本体
- 3 トロフィー
- 10 装飾部
- 20 本体部
- 30 脚部
- 40 土台部
- 201 棒
- 202 凹部
- 203 表示部材
- 204 膨出部
- 301 ジョイント

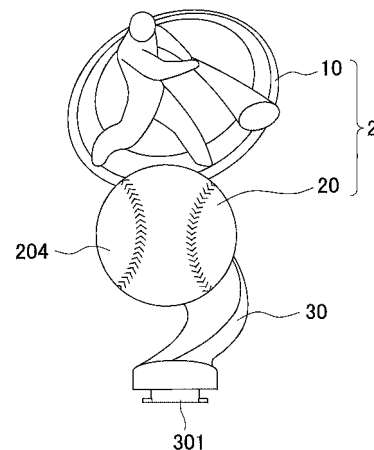
10

20

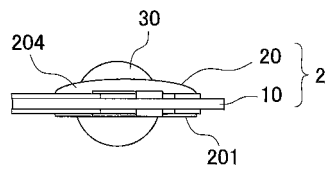
【図 1】



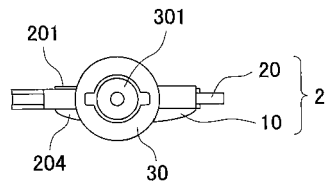
【図 2】



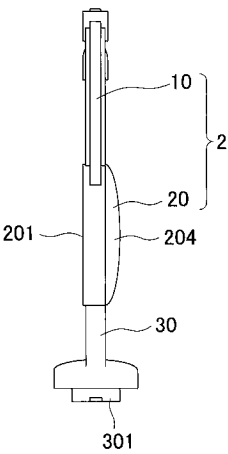
【図 3】



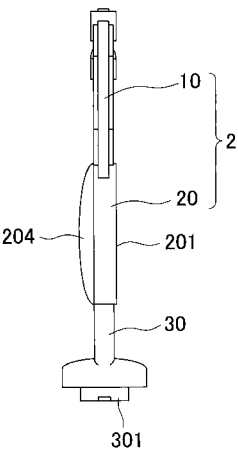
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

